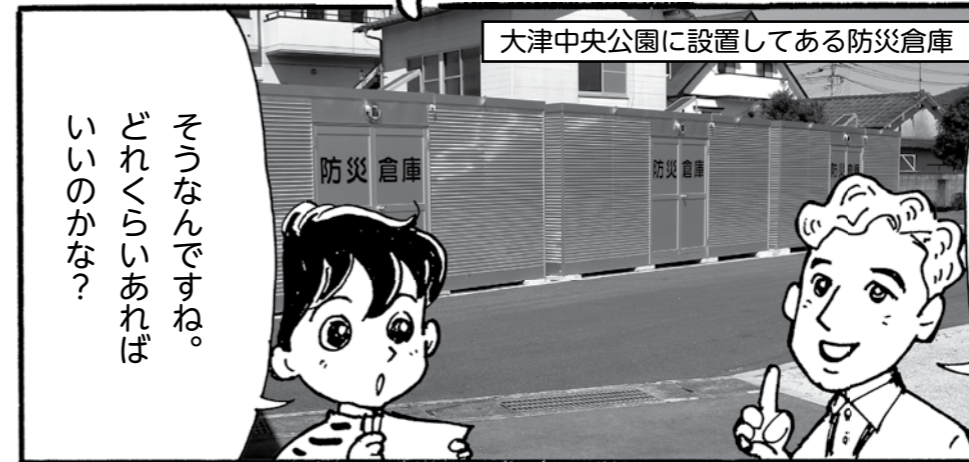
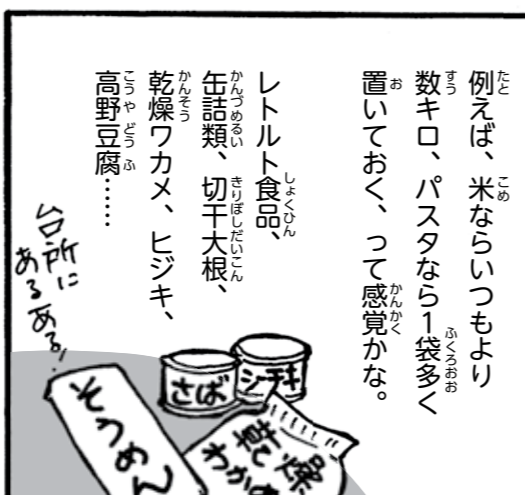
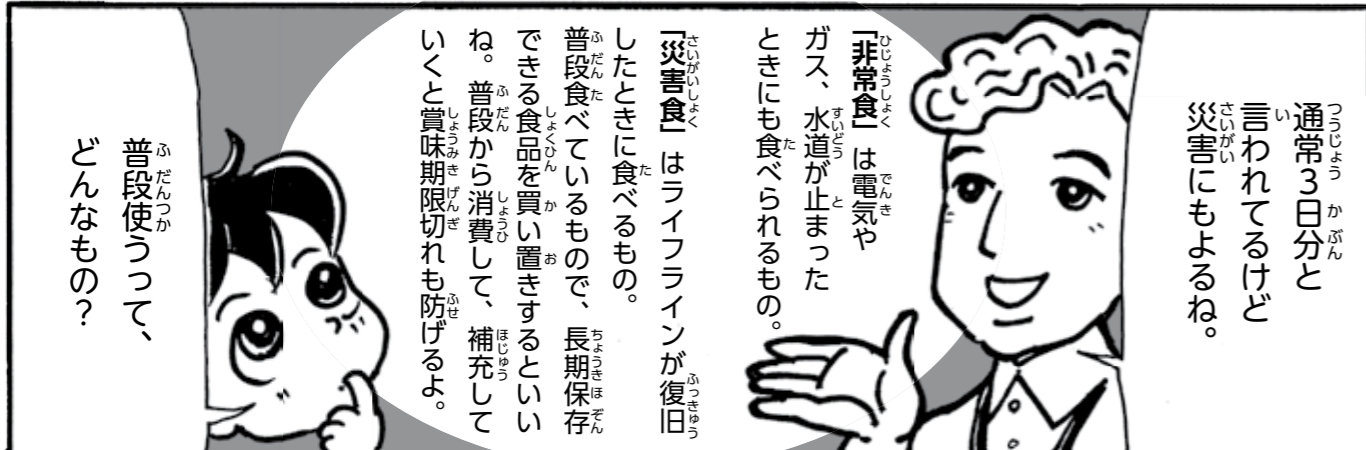


# 大津元気くんの 食料備蓄を しよっ！

ぼくのこと知りたい人は  
大津町 HP を見てね！



**もちろん！**  
しかし、東日本大震災では  
しばらくの間、避難所に  
食料が十分に届かない  
事態が起きたし、  
家庭でも対策が必要だよ。



## 「災害食」は「日常食の買い置き」を！

7月31日、県は町生涯学習センターで災害に備えた家庭の食糧備蓄率の向上を目的に「目からウロコの食糧備蓄」講演会を開催しました。

料理研究家の天野朋子さんは、東日本大震災後の東京での生活について「計画停電や道路寸断などにより食料が入手困難な状況でも、ガスが使えたためお米を中心に買い置きしていた乾物や豆などで普段通りの生活ができた。冷蔵庫を使わない伝統食材はサバイバル食材」と話しました。

食育エコロジストの波多野毅さんは、米や日本伝統の味噌・しょう油、切干大根、ヒジキなどの乾物をはじめ、カボチャやイモなど日持ちする根菜を紹介。「災害時でも健康的な食事ができる。『非常食の買いだめ』ではなく『日常食の買い置き』を」と提案しました。

## 「目からウロコの食料備蓄」講演会



3.11直後の食生活を振り返りながら講演を行う天野さん

## ■熊本県民の低い備蓄率

- 2011年厚生労働省による国民健康・栄養調査によると、非常用の食料や飲料水を備蓄している世帯の割合は全国平均47.4%
- 2012年熊本県民アンケートによると、熊本県民の備蓄率は23.0%

## ■大津町の食料備蓄の状況(平成25年7月29日現在)

品名	食数
サバイバルパン	672食
クラッカー	4,200食
アルファ米	1,100食
カロリーメイト	300食
計	6,272食

※現在、食糧備蓄5カ年計画の2年目。  
※飲料水については、大津菊陽水道企業団が備蓄。

## ■備蓄の目安

- 災害時に備えた備蓄品の例(出典：政府広報)
  - ・飲料水：一人1日3リットルを目安に、3日分を用意
  - ・食品：ご飯(アルファ米など一人5食分を用意)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど、一人最低3日分の食料を備蓄しておきましょう。
  - ・下着・衣類、トイレトーパー、ティッシュペーパーなど、マッチ・ろうそく、カセットこんろ
- ※非常に広い地域に被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震では、「1週間分以上」の備蓄が望ましいとの指摘もあります。
- ※飲料水とは別に、物を洗ったり、トイレを流したりするための水も必要です。日頃から水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつもはっておくなどの備えをしておきましょう。

■問い合わせ 役場総務課 地域安全係 ☎096(293)3111 役場健康福祉課 健康推進係(子育て・健診センター内) ☎096(294)1075